論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

報　告　番　号	甲　第　1167　号	氏　　名	櫻　井　伸　一
論 文 審 査 担 当 者	主　　査　　野見山　哲生 教授 副　　査　　本田　孝行　教授　・　駒津　光久　教授		

（論文審査の結果の要旨）

メタボリックシンドローム（MetS）と歯周炎の密接な関連性はすでに報告されているが、その生物学的メカニズムは明らかになっていない。MetS と歯周炎に関する報告の多くは横断研究であり、縦断的研究は少ないため、歯周炎が MetS のリスク因子であるかの証明は困難であった。今回、MetS における歯周炎（リスク因子）の影響を明らかにするため、特定健診に併せて歯科健診を行い縦断的に調査、分析を行った。

本研究では、2014 年と 2016 年の両方で長野県塩尻市の特定健診と歯科健診を受診した 30 歳以上の国民健康保険被保険者 390 人を対象とした。なお特定健診受診者数は 2014 年 2716 人、2016 年 2454 人であり、そのうち歯科健診受診者数は 2014 年 985 人（28%）、2016 年 754 人（32%）であった。特定健診では生活習慣などに関する問診、身長・体重・腹囲の測定、血圧測定、血液検査が行われた。歯科健診では歯周組織の状態、口腔清掃状態、残存歯の本数、未治療の喪失歯の本数を調査した。歯周組織の評価には WHO の地域歯周疾患歯数 CPI を用いた。多変量解析（順序ロジスティック回帰分析）によりリスク因子の変化が MetS の変化にどのように影響するかを分析した。従属因子は MetS 構成要素（高血圧、脂質代謝異常、高血糖、肥満）の該当要素数の増減と各因子の変化とし、MetS の各要素（高血圧症、脂質代謝異常症、高血糖、肥満）の変化を「なし、改善、持続、発症」の４つのカテゴリに分類した。説明因子は生活習慣、投薬状況、歯科健診結果の変化で、各説明因子の変化を「なし、改善、持続、悪化」の４つのカテゴリに分類した。

その結果、櫻井伸一は次の結論を得た。

1. 歯周炎の変化は MetS 該当要素数の変化に有意な影響を与えていた。歯周炎が持続するか悪化した群は歯周炎に元々罹患していないか、歯周炎が改善した群よりも MetS の該当要素が増加した者の割合が高かった。
2. 歯周炎の変化は高血糖の変化に対して有意な影響を与えていた。歯周炎が持続している群はその他の群よりも高血糖の有病率・発症率が高くなった。
3. 歯周炎の変化は肥満の変化に対して有意な影響を認めなかったが、残存歯数の変化は肥満に有意な影響を与えた。残存歯数が少ない程肥満は持続するか発症する傾向にあった。

これらの結果より、歯周炎は MetS のリスク因子であり、歯周炎を減らすことが MetS の予防につながる可能性が示唆された。

主査、副査は一致して本論文を学位論文として価値があるものと認めた。